



アバン仙台 Jr. Youth News 2017年 10月号

第36回

「勝負」を経験した高円宮杯・残る1部昇格戦



自府 大くんのゴール後



第29回 高円宮杯全日本ユース(U15)サッカー選手権大会 宮城県大会

高円宮杯宮城県大会が10月16日(土)に行われました。アバンツァーレの選手たちは精一杯戦いぬきました。

結果は、AC エポルティーボが見事な守備で決定機、落ち着いた流れをつくれず、敗戦。これが「勝負」、これがサッカーだなと私個人としても反省と経験をさせてもらいました。

そして、選手とMJ1部昇格戦に向け「挑戦者」である真摯な気持ちに立ち戻りましょう。

皆さん、忘れてならないのは、ジュニアユースの歴史に新たな1ページを加えてくれたのは間違いなく、今の3年生たちです。

東北大会出場という大躍進、アバンツァーレのサッカーは強い、面白いと後輩たちや見ている人たちに感じさせてくれたこと、素晴らしいことです。誇りに思います。現3年生の「仲」があるからこそかもしれません。帯同した2年生も力を与えてくれました。

また、来年度以降のジュニアユースが強くなる基盤となるのは今年度の戦い方となるでしょう。

残るは昇格戦。気持ちを切り替え、昇格戦に集中しましょう。最後まで全力を尽くす姿に応援宜しくお願いします。

次は俺たちの番！ U14・13 新人大会 始動



U14・13 チーム新体制紹介

『チーム』キャプテンの栗原 蓮くん(2年)



僕たちは、新人戦に向けて日々の練習に取り組んできました。これまで練習してきたことをすべて出しきって、グループリーグ1位を勝ち取りたいと思います。



オチャメな一面も

がんばります。『ゲーム』キャプテンの葛巻 悠くん(2年)



今回の新人戦にむけて、暑い夏も、走り込みもチームで乗り越えてきました。そうするうちに、少しずつですが団結力もついてきました。

新人戦では、アバンツァーレ歴代最高の順位になれるように、自分自身の全力を出しきり、チーム一丸となって一勝でも多くしたいです。

ついに！ MJ 1部リーグ昇格戦

● 日時： 11月3日(金・祝) 11時キックオフ

相手： 多賀城FC

多賀城FCは個人能力もあり、パスとドリブルも駆使した攻撃的なサッカーをするチームで、一丸となるチームです。

アバンツァーレの攻撃のキーとなるのは横横、斜め向かいにいる選手とのバランスです。ドリブルを主体とした攻撃スタイルに精度が上がった連携技術で最後となる試合も戦い抜き、1部昇格を勝ち取ります。応援宜しくお願いします。

第25回 宮城県クラブユースサッカー連盟(U15)新人大会

ついに始まります。2年生・1年生たちにとって一年の成果が試される新人大会グループリーグのスタートです。

この大会の結果は来年度の第33回日本クラブユースサッカー選手権(U15)宮城県予選の組み合わせに反映されます。

選手もチームとしても前大会以上の結果を目指し、活動してきました。前年度までの成績以上のベスト8を目指します。

また、3年生から受け継いだサッカーにプラスして来年度のチームの戦い方を見つけ、強化する部分も計る大会にしたいと考えています。

技術的な成長は個人にも見られるので、「連携」の技術、モチベーション、走りについて、選手全員で一丸となってプレー出来れば、よい結果もついてくると思います。これまで成果を見せられるよう頑張りますので、応援よろしくをお願いします。

新人大会 グループリーグ 組み合わせ

- Bグループ：アバンツァーレ・DUOパーク・ラソス仙台・青葉FC
- 日程：グループリーグ期間 10月～11月(延期の場合)
- ① 10月1日(日) アバンツァーレ VS DUOパーク
- ② 10月28日(土) アバンツァーレ VS ラソス仙台
- ③ 11月4日(土) アバンツァーレ VS 青葉FC
- 会場：3試合、青葉区熊ヶ根コミュニティ広場。

テクニカルな取り組み

今回は、「ドリブル」について紹介します。

最近、ドリブルをする場面で、ぬくタイミングを「狙いすぎ」「見すぎ」ることによって「相手との近さ」が見られます。小・中学生の選手たちのドリブルで気になる部分でもあります。

この「相手との近さ」や「狙いすぎ」「見すぎ」な部分の改善に向けたキーポイントとなるのが、ドリブルにおける「間合い」「体重移動」「誘い」です。相手の反応を待ちすぎないことが大事です。

まず「間合い」については、足に当ててしまう、引っかけられてしまう選手。これは相手との距離間の問題も考えられます。相手が一歩足を出すと届く距離を知ることも勝負を優位に進めます。

続いて「体重移動」。相手を抜くにはパワー、スピード、テクニックの何かしらで勝つことも重要です。パワーで勝てない相手に対してスピードとテクニックで勝つためには重心移動も大事です。前後の動き(ステップ + ボールコントロール)も混ぜつつ左右に抜くなど、相手の重心を崩し対応不可能になるような体重移動をさせることも大事です。

そして、「誘い」の技術。「相手を誘う」ということです。海外トップレベルの選手たちは、自らが主導権を持って動くドリブルを駆使していること。相手の動き(反応)を待っているドリブルだけでかわすのは困難です。自分のタイミングで仕掛けられれば、それに対して相手は動かなくてはならず、そこから抜きさるタイミングに生きてきます。

更にドリブルが上達するためには、自分の技術以外のせいにならないことです。「靴やピッチが悪い、相手が強いなど、言い訳をしないで、自分の実力が足りてない、だから練習するしかない」という気持ちに辿り着いたらドリブルはもっと面白くなります。

コーチが辿り着いたのは自分の「間合い」を持つことです。自分の武器があるのはいいことですが同じことをしないこと。人の真似だけとか、走り方やリズムは人とは異なります。自分のドリブルを磨きましょう。

選手たちの活躍を紹介

ジュニアユースの3年生の相澤一成(あいざわ いっせい)くん、山口眞輝斗(やまぐち まきと)くん、2年生の栗原蓮(くりはら れん)くん、名取一中から3年生の片岡立(かたおか じょう)くん、2年生の浅見玲太(あさみ りょうた)くん合計5名が名取市の中学生駅伝競争大会に出場し、増田中Aの優勝という結果でした。

眞輝斗くんは4区、蓮くんは5区で区間賞も獲りました。みんなゴールする最後まで力強い走りを見せ、ゴール後は倒れてしまうくらい頑張りました。

アバンの活動と両立して頑張っている選手たち。サッカーだけでなく、学生としての活動も大事です。今後も紹介していきます。また、増田 FC 出身の松崎コーチがかけつけ応援してくれました。(※いい写真ですね)



一成くん 眞輝斗くん 蓮くん



丈くん 玲太くん

OBとの練習試合



OBの吾成くん

OBの空輝くん

先日、聖和学園フットサル部と練習試合をしました。

聖和学園フットサル部は同好会でスタートし、学校敷地内の空いたスペースで頑張る活動姿勢が認められ、サッカーコートを作ってもらった秘話を持つ素晴らしいチームです。

そのフットサル部には、テクニックの多彩さで後輩たちの憧れでもある、ジュニアユース6期生の川部空輝(かわべ ひろき)くん(高校2年生)の在籍しており、更にジュニアユース7期生たちの同期でジュニア選手として6年生まで活動し卒業した柿崎吾成(かきざき いっせい)くんとも再会できました。

今回の練習試合は、空輝くんが今の選手たちの躍進、東北大会に出場したことも大変、喜んでくれて、ぜひ練習試合をしたいと申し出があったので実現しました。

こういった見てくれているOBたちの存在にまずは感謝です。そして、そういった選手たちの活動があり、今のトレーニングスタイルができ、文武両道の取り組みが受け継がれています。現ジュニアユースの選手みなさんには誇りを持って堂々と主体的に取り組んでいきましょう。

～ 空輝くんからコメント～

『練習試合ありがとうございました。久しぶりにみんなとボールを蹴ることが出来て自分自身も楽しかったです。』

部活のみんなも、「アバンのみんな技術あるね」「アバンのサッカー面白い」と言っている人もいて嬉しかったです。

みんなのサッカーにはもう少し迫力が足りないなとは思いましたが、可能性のあるチームだなと思いました。

これからも、厳しい戦いが残っているとは思いますが、頑張ってください。応援しています。また、練習試合をしましょう。』

～ 畠山コーチの体験談～

「よい練習」は結果と経験を与えてくれます。そう思わせてくれた専門学生への話です。

専門学校にもサッカーの大会があり、宮城県で優勝すると全国大会にも出場できます。

コーチはサッカーの奥深さ、本質、面白さを仙台に来て、同じサッカー部の選手たちに教わりました。

FWとして役割から基礎的なヘディングに至るまで、強豪校で活動してきた選手に丁寧に教わり大会を迎えました。

準々決勝でのこと。得点は2点差。コーナーキックとなり、何度も練習してきたセットプレー。何度もタイミングなど繰り返し修正してきましたし、大会で奪った8ゴール中4ゴールがセットプレーだったので自信もありました。

シュート性のキックに走り込み、頭で軌道を変えてゴールに流し込む作戦が2本連続で決まり同点。その後、キーパーとの1対1で腕が足にひっかけPK、仲間が決め逆転勝ち。その後の決勝ではPKをとった時の衝突で膝の靭帯損傷。そのまま出場しましたが、上手く動けず交代。チームも敗戦しました。

ただ、基礎を大事にする現在のコーチのスタイルがこの専門学生の時からスタートしました。練習量だけでなく、失敗している仕組みを考えられるようになりました。

皆さんも「よい練習」を意識して活動してみよう。